

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4772800076		
法人名	有限会社 豊		
事業所名	グループホーム 光風の家		
所在地	沖縄県豊見城市字高嶺299-1番地		
自己評価作成日	令和元年8月1日	評価結果市町村受理日	令和2年1月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4772800076-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	令和元年 10月 10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・御利用者様の個々の想いに、寄り添うケアを心掛けています。近隣に出かけた際には地域の方と挨拶を交わし日常的に交流を行っている。月2回、訪問診療・月に1回、訪問歯科・週1回の訪問看護ステーションとの連携を図り、健康管理をおこなっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅街の奥に立地し、隣には、法人の運営するディサービスの建物があり、人の往来が多い環境である。施設内には、ペットの犬と猫がいて、散歩やえさやり等、利用者と交流している。重度化に伴い、外出が困難になってきたが、天気の良い日の午後は、可能な限り、中庭に出て、車いす利用の方も含めて日光浴を実施している。食事についても、職員と利用者が同じテーブルで談笑しながら食事を実施しており、理念に掲げている、「声なき声に耳をかたむける」という視点を重視したケアを実践している。発言が困難な利用者の思いをくみ取るためのケアが、日常化し、職員のケアに反映している。職員の働く環境も整備され、勤務年数の長い職員が多く、コミュニケーションも良好である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有と実践として、事務所や玄関などに掲示し、毎朝利用者様と共に復唱している。毎月、日勤・夜勤者合同でのミーティング時に理念に沿った利用者様のケアが出来ているか情報交換をおこなっている。	理念は、玄関、事務所に掲示されている。毎朝9時の申し送り時に理念の読み合わせを行っている。毎月実施している、職員ミーティングの際に、日常のケアについて、理念に沿ったケアの検討を実施している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所と地域との付き合いとして散歩で近隣に出掛けた際は、地域の方と挨拶を交わし日常的に交流をしている。地域包括支援センターの呼び掛けで認知症カフェ等に利用者様も一緒に参加している。	住宅街の奥に位置しており、車の往来が少ない環境のため、散歩に気軽にでかけることができる。又、施設の前に広いスペースがあり、利用者の日光浴の時間帯に近隣の方との交流がある。又、認知症カフェにも利用者と共に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の力を活かした地域貢献として、地域包括支援センターの呼び掛けで認知症カフェに出掛けた際、地域の方々に支援の方法等アドバイスをお願いされることもあり、地域貢献できるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を活かした取り組みとして、ホームの現状報告やヒヤリハット・事故報告等をおこない意見交換しホームへの要望やアドバイス等をもらいサービス向上に活かしている。	運営推進会議は、奇数月の第三金曜日に設定している。会議の際には、ホームの現状、イベント報告、告知を行っている。議事録の記載内容は充実しており、事業所内の閲覧場所について玄関の近くに設定し、手に取りやすい環境に配慮している。	利用者、行政、地域包括センター職員の参加は、毎回確認できたが、利用者家族、地域住民の参加に対する、告知方法や、委員選定方法に関する工夫が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との連携として、困難事例などがあれば、各担当者からアドバイスをもらうようにしている。	運営推進会議の際に、情報交換を実施している。地域包括支援センターとは、イベント(認知症カフェ等)の協力関係が構築されている。行政とは、良好な関係を維持している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの実践として、身体拘束等をしない方針をホームに掲げ、定期的にミーティング時に身体拘束のないケアを情報共有し、勉強会をおこなっている。	毎月のミーティングにおいて、身体拘束をしないためのケアについて勉強会を実施している。入浴の拒否等については、利用者の気持ちを落ち着けるために、声掛けを中心としたケアを実施している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止の徹底として、マニュアルやミーティング等により学ぶ機会を持つようにしている。職員間でも相互に見過ごしがないように注意を払いあっている。	身体拘束をしないケアの前提として、虐待については、必要事項を掲示し、職員間で共有している。ミーティングにおいては、ケアの基本について読み合わせを実施している。外部研修にも積極的に参加する環境を整備している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の理解と活用としては、制度などについては、グループホーム協会を通じ研修などで学ぶ機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明と納得については、契約に関する説明の時間は十分に取っており、疑問点等は都度説明し、納得してもらっている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に関する利用者、家族等意見の反映として利用者様とは、コミュニケーションを密にとり、家族様の面会時には思いや意見を収集するよう心掛けている。	利用者の家族は、毎日の面会や週に1~2回の面会の家族等、頻回である。面会の際に、情報を収集し、家族、利用者の意見を確認している。退所した利用者の家族が、定期的にボランティアとして来所している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する職員意見の反映としては、定期的におこなうミーティングにより意見交換をおこない、運営に反映できるよう努めている。	職員間の情報共有は、毎朝の申し送り、月に1回のミーティング等を活用している。職員の提案に対しては、可能な限り運営に反映している。管理者と職員間との関係は良好であり、働きやすい環境の整備に努めている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業環境の整備としては、顧問の社会労務管理士、労働基準法などは管理してもらっている。休日や年休は事前に希望表を作成し、希望通りに習得できるよう調整している。	職員のシフト調整に対しては、職員の希望を優先している。職員の就業年数は、7年以上が4名である。	職員の健康診断は、年に1回実施しているが、夜勤職員については、年2回の実施が望まれる。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員を育てる取り組みとしては、現場の状況をみて、法人内、外の研修にも参加できるようにしている。法人外研修は参加者以外にも情報共有できるよう報告の機会を設け、報告後も研修ファイルとして保管している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流を通じた向上として、外部での研修やグループホーム協会を通じ定期的に管理者会議がおこなわれ、情報交換がおこなわれている。他の同業者との交流を図り、サービスの質の向上を目指している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期に築く本人との信頼関係については、すぐにサービスを開始するのではなく、事前調査したり本人の状態、本人の生活の場に適しているか体験入所などを実施し、安心してもらえるよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期に築く家族などとの信頼関係については、家族様の要望等に関しては、入居前の段階から十分に聞き取りを行えるよう、場所、時間の確保をすることで納得して利用して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応の見極めと支援としては、各居室や役所、包括とも相談。グループホームの入所が必要ならば協力し対応できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と共に過ごし支えあう関係については、日常の何気ない会話の中にも教えていただくという場面を作り、方言を質問したり、三味線を一緒に弾きコミュニケーションを取っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人を共に支えあう家族との関係については、外出、外泊など家族様の出来る範囲でお願いし、実現に向けて職員が支援している。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場との関係継続の支援としては、家庭行事へ参加しやすいよう、時間を調整して準備をしたり、送迎のお手伝いをしたりして、家族様や親戚馴染みの場所などへの関係が途切れないよう努めている。	家族の面会時等に、情報交換を行い、家庭内の行事等に参加可能な調整を実施している。ドライブをする際に、自宅に立ち寄り、地域の方とふれあう機会を設けている。近くのスーパーに買い物に出掛ける際には、フードコート等を利用し休憩時間に、近隣の買い物客との触れ合いを行っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係の支援としては、利用者様同士が寛げ、ゆったりと出来る共有スペースを設け談話等楽しませている。孤立しないよう、職員間で情報を共有し、支え合える支援を心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係を断ち切らない取組みとして、長期入院となり、契約が終了しても御本人様への面会やその後の相談を受けたり関係が途絶えることなく継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向の把握としては、出来るだけ本人の意向や希望に添えるよう日々の生活の場面で何気ないシグナルを見落とさないよう努めている。	利用者に対して、個別のコミュニケーションの時間を意識的に確保している。その際に思いを引き出し、対応している。できる限り、役割を持っていただくように、庭の水やりや洗濯ものたたみ、新聞たたみ、料理の下ごしらえ等、利用者個々に応じて取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしの把握としては、家族様の協力と理解を得ながら、生活歴などを把握している。プライバシーに触れる際は、個人情報の取り扱いに気をつけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	暮らしの現状の把握としては、日々の介護記録により各人の1日の過ごし方や心身状態を把握できるようにしている。御本人様の有する力に関しては、日常の中で職員が気付いたことをミーティング時に検討議題として掲げるなど、正確に把握できるように努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	チームでつくる介護計画とモニタリングについては、モニタリングや担当者会議は定期的に行い、利用者様家族、職員間で情報を共有している。	介護の現場における対応について、ケアマネは情報共有を実施している。利用者の発言を確認した職員は、記録に残し、モニタリング時、介護計画策定時に参考になっている。 毎月の全体ミーティングを重要業務と捉え、基本的に全職員が参加し運営している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録と実践への反映としては、日々の記録の中でも日勤・夜勤その他病院受診などを、色分けで反映し送りノートを活用し、その情報を職員間で共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりを支えるための事業所の多機能としては、家族様の対応が困難な事に関しては積極的に協力するようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源との協働としては、地域のスーパーへ、一緒に買い物へ出掛けたり隣接するDSとの交流、認知症カフェへの参加など、地域の方との触れ合いを大切にしている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診支援としては、かかりつけ病院はご本人様と家族様の希望を優先し、家族様の同行が困難な時には職員が病院に付き添い、家族様に受診前後の連絡、経過は毎回電話にて報告をおこなっている。	4人はかかりつけの病院先が決まっており、その他月2回5人の方は訪問診療を受けることで安心した生活を送ることができている。 基本的にはご家族が病院受診を付き添い、不定期の受診については施設職員にて対応を行っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職との協働については、ささいな情報でも協力医療機関の看護師を通じ、医師へ報告し相談できるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の医療機関との協働については、治療内容の把握、計画をもとに入院前の生活に戻れるよう支援している。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援については、事業所の現状を把握した上で、関係者を含めて統一した方針を契約書に記載し、入所契約時に確認してもらっている。	重度化や終末期に向けた方針について利用者と家族に契約時、説明同意を行っている。職員の勉強会については毎月のミーティングの中で行い、意識や知識の心構えを図っている。現状では、対象となる利用者はいないが、今まで2人の方の看取りを経験し、訪問看護と連携した支援の実施を確認した。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の備えについては、緊急時対応マニュアルを用意しており、定期的なミーティング等の機会を利用し、職員へ緊急時の対応を認知してもらえるようにしている。不安要素があれば解決に向けて取り組んでいる。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策としては、スプリンクラーや自動通報装置設置。設備点検実施。年2回消防避難訓練を実施し、隣接するDSの職員も訓練に参加している。朝の申し送り時に消防避難訓練の読み上げを行い、緊急時に備えている。	利用者と職員を含めた備蓄の確認ができた。昼夜を想定した、避難訓練は、火元を台所に想定した実施が確認できた。近隣住民への声かけを行っているが参加協力はない。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保については、排泄の失敗があったとしても、さりげない声掛けと自然な対応を心掛けプライドを傷つけないように対応している。	利用者一人ひとりに合わせた介護を行い、言葉かけや時には方言を交えた会話にて誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。自分から言葉を発することが少ない方にも動作や目線を確認しながらコミュニケーションを図っている様子があった。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望の表出や自己決定の支援については、着替え時の服など、選択決定をしていただく場面をさりげなく作っている。食事の際には、普通食やアチビーが良いのか都度、確認を行い、本人の希望に添うよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々のその人らしい暮らしとしては、自分のペースで過ごされ、役割などへの声掛けも行っている。居室にてテレビを視聴し、自由に過ごされている方もいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれの支援については、ホームにて利用者様や家族様と相談し、ヘアカットや白髪染めを行ったり、お化粧品やネイル等を希望される方には支援している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しむことのできる支援については、利用者様の状態の重度化の為、食事準備などは難しくなってきたが、食後の後片付け、おしぼり置き、テーブル拭き、御膳拭き等を協力して行うようにしている。ミキサー食の利用者様には食材や料理名を食事介助しながら説明をおこなっている。	調理師の方が調理の準備や片付けを行っている。簡単なものやしのひげ取り等を利用者にやってもらうこともある。食事形態については利用者に合わせて対応を行っている。すべての利用者と職員と一緒にテーブルを囲んで食事を楽しむ様子があった。利用者と一緒にホットプレートでヒラヤーチーを作るおやつ会は不定期で行っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取や水分確保の支援については、落ち着いた行動により、食事が中断されてもすぐに下膳せずに、次のタイミングを見計らい再度食事を提供している。さりげなく介助を行い、全量摂取されるよう努めている。水分補給は飲み物を変え、あきない様に細目に促し摂取量を都度、記録し十分摂れるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持については、毎食後の口腔ケアを実施。口腔内のトラブルについては訪問歯科の医師と相談している。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の自立支援については、排泄チェック表を用いて、一人ひとりの排泄パターンを把握し、事前の声掛けをさりげなく行うなどして、失敗を防いでいる。	利用者に合わせた排泄の支援を心掛け、基本的には2時間置きにトイレ誘導と声かけを行い、排泄の支援を行っている。 夜間のみにおムツを使用している方はいるが日中はトイレでの排泄を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防と対応については、乳酸菌ドリンクやヨーグルト・牛乳などを取り入れるようにしている。トイレ誘導した際には、必要に応じて腹部マッサージを行っている。エスカルゴ運動も習慣とし、実施している。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を楽しむことができる支援としては、基本的には一日越しの入浴であるが、その方の入浴パターンを把握し希望や必要時には対応するようにしている。入浴拒否があった場合は、無理強いせず時間を空けたり、翌日に変更したり本人の意思を尊重し対応している。	週3回の入浴支援を行い、利用者に合わせた声かけや対応を行い安全、安心した支援が行えている。入浴拒否の方に関しては、時間や職員を替えることでご本人の意向に沿った対応が行えている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠や休息の支援については、個々の生活習慣や現在の状態を把握し、安心して休めるよう配慮している。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援については、常に病院、薬局と連携している。職員一人ひとりが利用者様の病状を理解し内服薬を把握するようにしている。誤薬防止の為に投薬ケースを準備し分かり易い状態にし、内服支援時、利用者様の前でも名前を読み上げるよう努めている。	管理者が個々の薬を1週間分セットし、遅番の方がセットされている薬を再度確認。利用者へ服薬する際には対応する職員が服薬の確認を行うことでトリプルチェックを行っている。薬変更時には職員への情報共有を行い、病状や変化の確認にも努めている。	服薬支援のマニュアルは確認できたが、実際に現場で行っている内容や手順を付け加えることによりわかりやすく実践的な改善を期待したい。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割、楽しみごとの支援については、以前の生活歴を配慮し、可能な利用者様には一緒に掃除等を手伝ってもらっている。タオルを畳んでもらう等、本人が役割として認識できるものはないか職員間でも情報交換している。		
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出支援については、散歩等により出来るだけ個々の希望に沿った外出機会を設けるようにし、天気のいい日にはドライブを楽しんだりしている。	利用者の希望にて、天気の良い日に天ぷらを食べに奥武島までドライブに行っている。施設近くで30分程度散歩される方や毎日屋根付きの庭に利用者全員を外気浴をさせ、気分転換と外にいる動物にも触れあう等の楽しみも行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持や使うことの支援については、現在お金を所持している方はいないが、週一回来るパン屋さんを楽しみにされ、職員と一緒にパンを選ばれている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の支援としては、希望があればすぐに対応できるように支援している。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地のよい共用空間づくりについては、風通しをよくし、閉鎖的空間を避ける為、玄関のドアはタイミングを見ながら解放している。お庭の椅子に腰掛け三味線を弾かれている利用者様に合わせ歌や踊りを楽しまれている利用者様もいる。季節ごとの創作物を掲示するなど、季節感を損なわない様に心掛けている。	壁には季節を感じさせる利用者と一緒に作成した壁紙や音楽を流したり、テレビがついている等利用者が居心地の良い環境作りを実施している。また、テレビや音楽の音が大きくなり過ぎて不快にならないように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間における一人ひとりの居場所づくりとしては、フロアのテーブルや椅子の位置を用途により変えることで、利用者様が思い思いに過ごせるよう努めている。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく過ごせる居室の配慮としては、利用者様が使い慣れた物や、好きな飾り物・写真を壁に貼ったりしている。紙おむつやポータブルトイレ等は直接目に触れない様、ケースに入れたり布で覆うようにしている。	馴染みのある家具や写真を飾ったり、音楽を流してご本人の希望に沿った居室の配慮が行われていた。また、自分で描いた絵等も飾られ、居心地の良い空間作りを心掛けている。居室には担当職員がおり、掃除や飾りつけにも気を使い利用者の意向も確認しながら対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの力を活かした安全な環境づくりとしては、日付や時間の分かる利用者様には居室にも、カレンダーや時計を設置するようにしている。		

目標達成計画

作成日: 令和 1 年 12月 8 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	47	服薬支援のマニュアルは確認できたが、実際に現場で行っている内容や手順を付け加えることによりわかりやすく実践的な改善を期待したい	誤薬がないよう徹底する	服薬支援について常に病院、薬局に相談しアドバイスをいただく	3ヶ月
2	4	利用者、行政、地域包括センター職員の参加は毎回確認できたが利用者家族、地域住民の参加に対する告知方法や、委員選定方法に関する工夫が望まれる。	利用者家族、地域住民、知見者の方へ参加頂けるよう努める	運営推進会議参加に向けての案内文書を作成し、参加を呼びかけ理解を示され協力下さっている	1ヶ月
3	12	職員の健康診断は、年に1回実施しているが、夜勤職員については、年2回の実施が望まれる	早期に対応おこなう	対応を試みた	1ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。